



臭化メチル剤に替わるシヨウガ根茎腐敗病対策

表1 試験ほ場における土壌消毒剤の処理方法 (2010)

試験区	処理内容
ダゾメット粉粒剤区	30kg/10a(畦たて→散布混和→14日間被覆)
ソイリーン区	3ml/穴(畦たて→薬剤点注→14日間被覆)
クロルピクリン液剤区	3ml/穴(畦たて→薬剤点注→14日間被覆)
ダゾメット粉粒剤+クロルピクリン錠剤区	ダゾメット粉粒剤30kg/10aとクロルピクリン錠剤1万錠/10aの併用処理(畦たて→ダゾメット粉粒剤散布混和→クロルピクリン錠剤散布混和→14日間被覆)
ヨウ化メチル(14日)区	15kg/10a(処理時に土壌と被覆間に空間無し、14日間被覆)
ヨウ化メチル(3日)区	15kg/10a(処理時に土壌と被覆間に空間無し、3日間被覆)
無防除区	くん蒸処理無、生育期の殺菌剤無、罹病株除去無

表2 各区における生育期の殺菌剤の使用歴 (2010)

試験区	初発確認日	ユニフォーム粒剤	ランマンフロアブル	プレビクールN液剤	合計
ダゾメット粉粒剤区	8月3日	3	3	5	11
ソイリーン区	8月17日	3	3	2	8
クロルピクリン液剤区	8月10日	3	3	4	10
ダゾメット粉粒剤+クロルピクリン錠剤区	11月9日	3	3	0	6
ヨウ化メチル(14日)区	9月7日	3	3	2	8
ヨウ化メチル(3日)区	9月7日	3	3	3	9
無防除区	7月6日	-	-	-	-

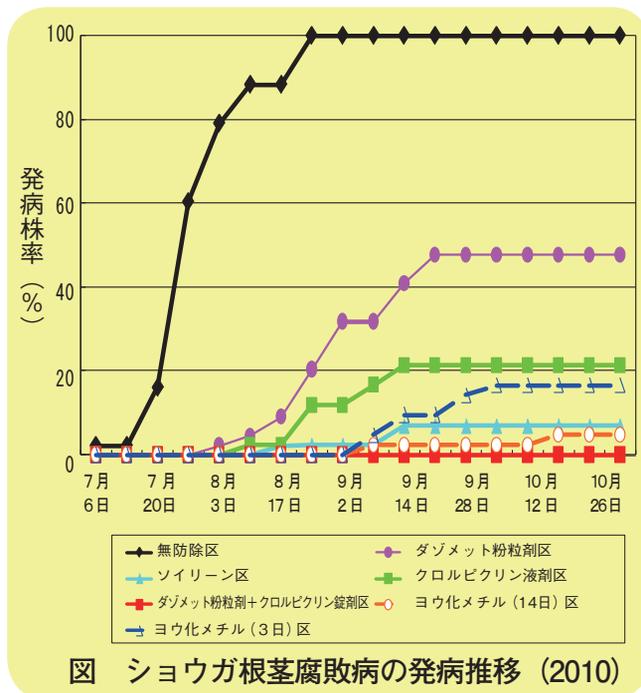


図 シヨウガ根茎腐敗病の発病推移 (2010)

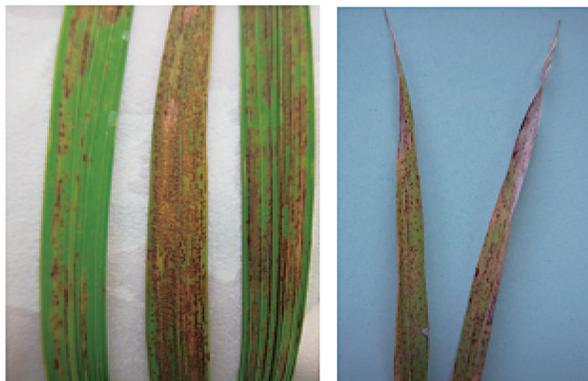


写真 ヨウ化メチル処理土壌に翌年植付けた水稻に発生した赤枯症状

シヨウガの土壌消毒剤として広く使用されていた臭化メチル剤は、オゾン層保護を目的に2005年に原則廃止されましたが、例外的に不可欠用途として代替技術での防除が困難なシヨウガ根茎腐敗病等に使用が認められていました。しかし、これも2012年末で全廃されます。そのため、シヨウガ安定生産技術の確立のために、臭化メチル剤に替わる既存の土壌消毒剤とシヨウガの生育期に使用する殺菌剤を組み合わせた体系防除を検討しました。

センター内の根茎腐敗病常発ほ場での試験では、クロルピクリン錠剤とダゾメット粉粒剤の併用処理、ソイリーン処理および

新規剤であるヨウ化メチル剤の14日間被覆処理の防除効果が高く、生育期の殺菌剤を補完的に組み合わせることで、本病の発生が著しく抑制されました(表1、2、図)。なお、ヨウ化メチル剤は、処理後シヨウガを1作栽培した後の土壌に植付けた水稻の葉に微小な赤褐色の斑点や生育抑制といったヨウ素による障害がみられたため、休耕や灌水のかけ流し等による障害軽減効果を調査する予定です(写真)。

今後は、根茎腐敗病の防除に加えて、雑草やセンチュウの対策も考慮した栽培マニュアルの策定に取り組んでいきます。

(病理担当 山崎睦子 088-863-4915)